

地 域 経 済 動 向

平成 18 年 8 月 30 日



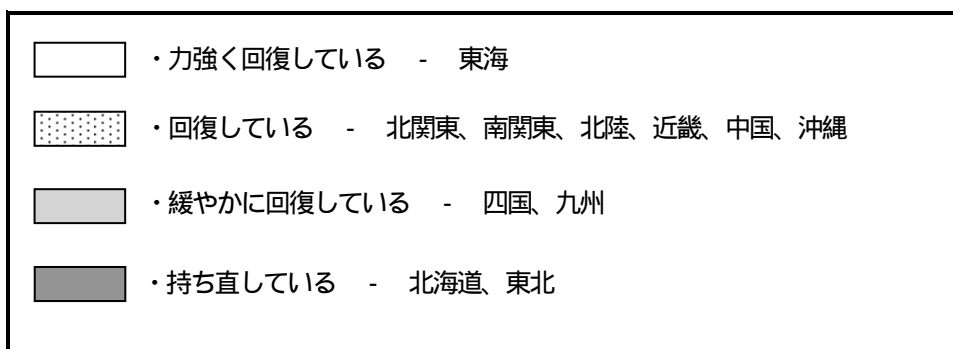
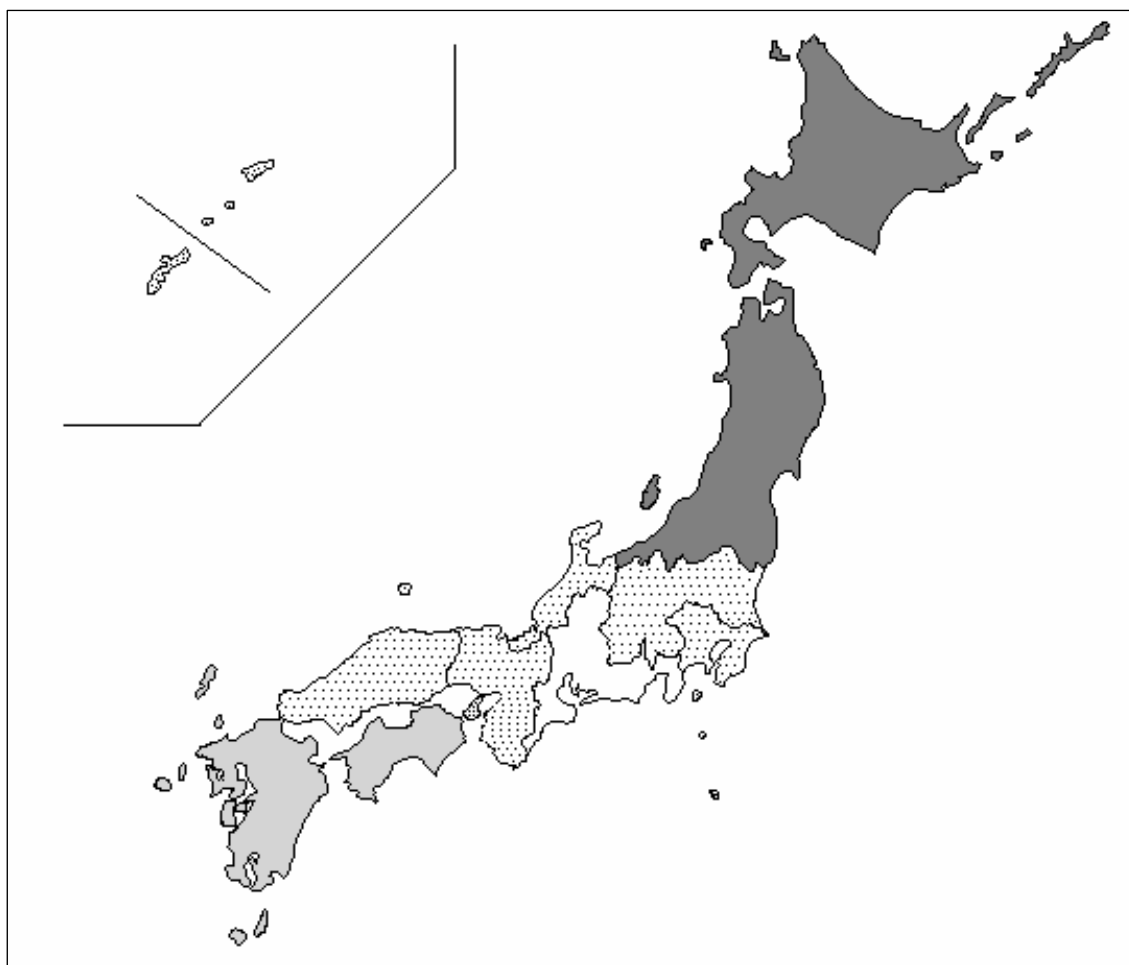
内閣府政策統括官室
(経済財政分析担当)

目 次

- 1 概況
- 2 トピック
- 3 地域別の動向
 - (1) 北海道
 - (2) 東北
 - (3) 北関東
 - (4) 南関東
 - (5) 東海
 - (6) 北陸
 - (7) 近畿
 - (8) 中国
 - (9) 四国
 - (10) 九州
 - (11) 沖縄
- 4 主要指標
- 5 参考資料

1 概況

(1) 各地域の景況判断



各地域の景況判断	北海道	東北	北関東	南関東	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
力強く回復している											
回復している											
緩やかに回復している											
持ち直している											

(備考) は、今回調査の判断。 は、前回調査の判断。

今回調査（平成18年8月）の前回調査（平成18年5月）との比較

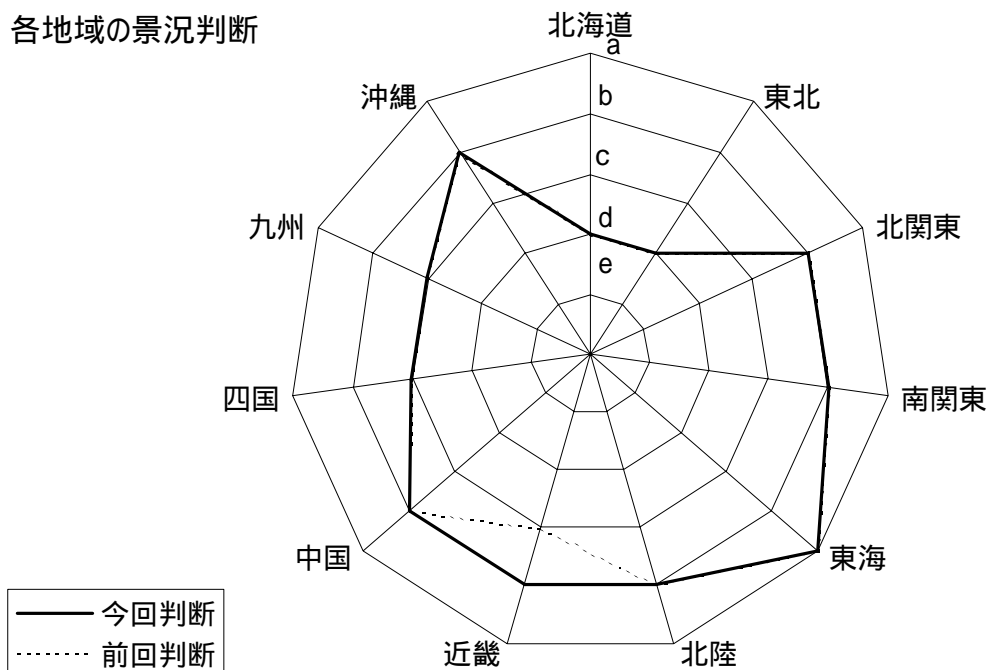
上方修正・・・1地域（近畿）

下方修正・・・なし

各地域の景況判断は、近畿では、鉱工業生産や個人消費などを理由として、上方修正となった。

その他の10地域（北海道、東北、北関東、南関東、東海、北陸、中国、四国、九州、沖縄）の景況判断については前回調査と同じである。

各地域の景況判断



- a: 力強く回復している
- b: 回復している
- c: 緩やかに回復している
- d: 持ち直している
- e: やや弱含んでいる

(2) 各地域の景況判断と主要変更点

		北海道	東 北	北関東	南関東	東 海
景況判断	5月 (前回)	持ち直している	持ち直している	回復している	回復している	力強く回復している
	8月 (今回)	持ち直している	持ち直している	回復している	回復している	力強く回復している
鉱工業生産 (沖縄は観光)	5月	増加	緩やかに増加	緩やかに増加	緩やかに増加	堅調に増加
	8月	増加	緩やかに増加	緩やかに増加	緩やかに増加	堅調に増加
個人消費	5月	おおむね横ばい	おおむね横ばい	持ち直している	緩やかに回復している	緩やかに回復している
	8月	おおむね横ばい	おおむね横ばい	緩やかに回復している	緩やかに回復している	緩やかに回復している
雇用情勢	5月	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	依然として厳しい状況だが、改善の動きがみられる	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している
	8月	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	依然として厳しい状況だが、改善が続いている	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している

(注) は上方修正、 は変更なし、 は下方修正を表す。

北 陸	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
回復している	緩やかに回復している	回復している	緩やかに回復している	緩やかに回復している	回復している
回復している	回復している	緩やかに回復している	緩やかに回復している	緩やかに回復している	回復している
緩やかに増加	緩やかに増加	堅調に推移	緩やかに増加	緩やかに増加	堅調に増加
緩やかに増加	増加	増加	緩やかに増加	増加	堅調に増加
持ち直している	持ち直している	緩やかに回復している	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	緩やかに回復している
緩やかに回復している	緩やかに回復している	緩やかに回復している	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	緩やかに回復している
着実に改善している	依然として厳しい状況だが、改善が続いている	着実に改善している	改善傾向にある	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている
着実に改善している	依然として厳しい状況だが、改善が続いている	着実に改善している	改善傾向にある	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている

2 トピック

<トピック1> 堅調に推移する設備投資と今後の見通し

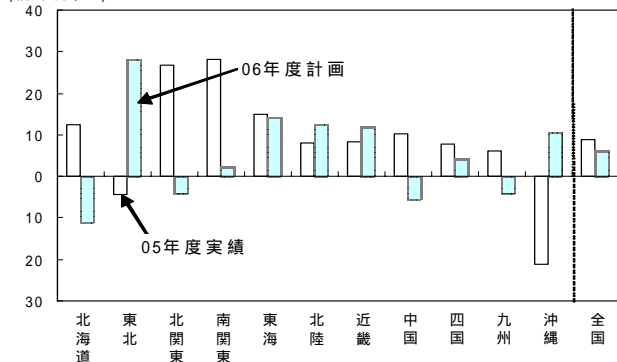
各地域の設備投資をみると、05年度（実績）に引き続き、06年度も多くの地域で前年度を上回る計画となっている（図1）。

そうした中、設備過剰感をみると、景気の谷であったころ（02年1 - 3月期）と比較すると、明らかに全地域で改善しており、東海、近畿では設備不足感が強くなっている。これが06年度の設備投資計画にも反映されていると言える（図2）。

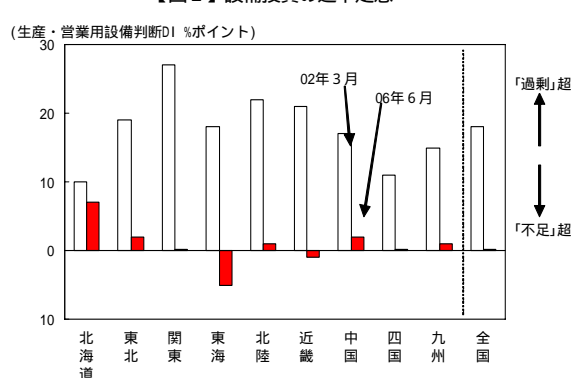
06年度設備投資の中身をみると、自動車、電子部品・デバイス関連の一部業種に限らず、川下から川上まで幅広い業種に投資の広がりがみられる。また、非製造業分野でも積極的な投資に向けて動き出すところが増える傾向となっている。製造業では能力増強を目的とする設備投資のウェイトが継続して高まっているという指摘もある。

設備投資は今景気回復局面では、回復のけん引役として大きな役割を果たしているが、この状態は今後も続くのだろうか。ある専門家は、国内総支出に占める民間設備投資の比率が循環的に上昇する局面では、企業の設備投資が長期的に増加すると指摘しており、この指標からは増加が今後も続くことが予想される。ただし、景気ウォッチャー調査（7月）では、「金利上昇懸念で中小企業の設備投資意欲が減退している」というコメントもみられ、引き続き注視が必要である。

【図1】設備投資（全産業）



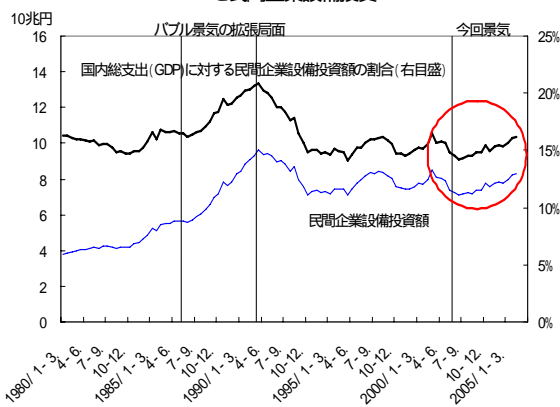
【図2】設備投資の過不足感



【表3】各地域の設備投資計画の特徴

地域	特徴
北海道	製造業が伸び、「紙・パルプ」、「鉄鋼・非鉄金属」が増加。非製造業も5年ぶりに増加。
東北	素材型産業が製造業全体をけん引。非製造業も10年ぶりに増加。
北関東	一般機械工業では工場新設の予定。非製造業では小売の新規出店の一段落、不動産の減少から全体も減少。
南関東	製造業は2年連続の増加。輸送用機械の工場新設、製油所の能力増強・製品高度化、機能性樹脂のプラント新設など。非製造業は運輸、卸・小売向けが好調なリースなどが増加。
東海	製造業では、新型車対応や能力増強投資がある輸送用機械や液晶や半導体関連工場の新増設のある電気機械が高水準。非製造業は、情報・通信、リースや運輸が好調で7年ぶりの増加。
北陸	製造業は、携帯電話やデジタル家電が好調な電気機械や印刷施設の整備、医薬品製造で研究拠点や工場新設を実施。
近畿	製造業は、高炉改修や能力増強投資がある鉄鋼や薄型ディスプレイ関連投資がある電気機械が堅調。非製造業では大規模な複合商業施設の建設がある不動産など。
中国	製造業は減少。プラント投資が行われる化学、高炉改修などがある鉄鋼が増加するものの、電子部品が高水準を維持しつつも大幅に減少。非製造業はリース及び情報・通信などが増加。
四国	製造業では、輸送用機械（造船）が減少するものの、情報家電や自動車の旺盛なデバイス需要がある化学、電気機械や紙・パルプが増加。非製造業は、卸・小売が減少に転ずるものの、リースや電力・ガスが増加し、2年連続増。
九州	製造業で薄型ディスプレイの生産能力増強投資がある電気機械、大型投資がある一般機械などが増加。

【図4】国内総支出に対する民間企業設備投資の比率と民間企業設備投資



（出所等）図1：日本銀行各支店「企業短期経済観測調査」により作成。東北は6県であり、新潟県を含まない。北関東は日本銀行前橋支店管内、南関東は神奈川県。東海は3県（岐阜県、愛知県、三重県）であり、静岡県を含まない。九州は沖縄も含む。

図2：同上、ただし、関東は群馬県前橋支店管内、四国は松山支店。関東及び全国の足元の値は0%。

表3：日本政策投資銀行各支店「地域別設備投資計画調査」（2006.8）により作成。

図4：内閣府経済社会総合研究所「国民経済計算」により作成。ただし、現行の連鎖方式系列及び固定基準による系列を接続して利用。GDPに対する民間企業設備投資の比率が持つ循環的性質に関しては篠原三代平「戦後50年の景気循環」（1994）他を参照。

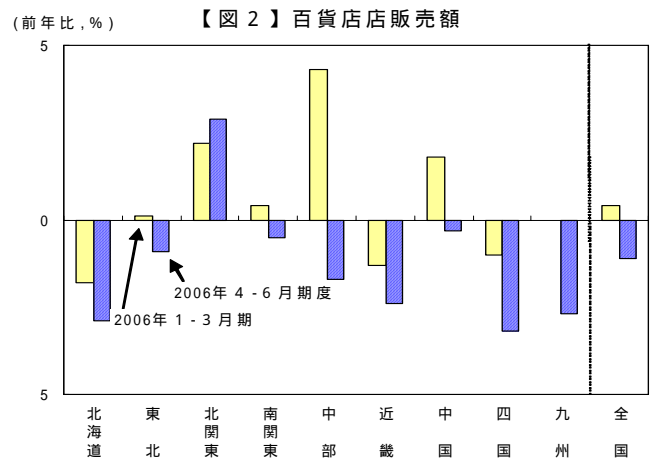
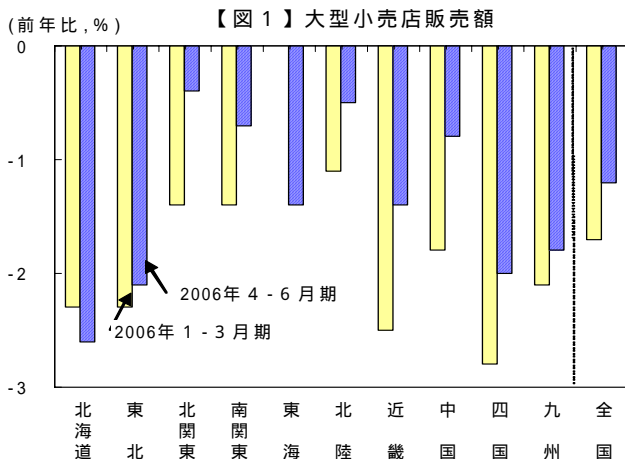
<トピック2> 天候不順の影響を受けた百貨店販売

小売関係の指標をみると、大型小売店販売額は、06年4 - 6月期は1 - 3月期と比較して、改善している地域が多い中(図1)、百貨店は北関東を除いた全ての地域で悪化している(図2)。

これは、景気ウォッチャー(4~6月)がコメントしているとおり、天候不順のため、春夏物衣料が伸び悩んだことが挙げられる。ヒアリングによると、「消費マインドは底固く、天候不順がなければ、前年並みの売上は確保できた」という指摘もあった。売上に占める衣料品の割合をみると、大型小売は32%、百貨店は51%と、百貨店のほうがその影響が強く出た可能性が高い。

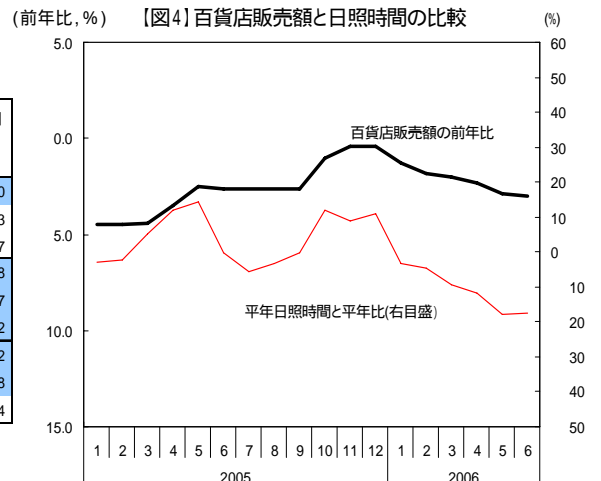
実際に各地の天候を検証すると、期を通して日照時間が少なく、降雨量が多かったことが分かる。また、4月は平年よりも気温が低かった(表3)。

ここで日照時間(平年比)と百貨店販売額(前年比)を比較するとほぼ同様の動きをしていることが分かる(図4)。一般に日照時間が多く、降雨量が少ないほうが百貨店販売にはプラスの影響となる可能性がある。



【表3】天候不順の内訳(平年との比較)

	年月	単位	地域区分										
			北海道 (札幌)	東北 (仙台)	北関東 (宇都宮)	南関東 (東京)	中部 (名古屋)	近畿 (大阪)	中国 (広島)	四国 (松山)	九州 (福岡)	沖縄	全国
気温 (平年差)	06年4月		-1.5	-1.1	-0.5	-0.8	-1.1	-1.2	-1.4	-0.8	-0.2	-0.1	-1.0
	5月		0.8	0.3	0.5	0.3	0.2	0.3	0.3	0.6	0.1	1.0	0.3
	6月		-0.6	0.6	0.9	0.7	1.0	1.1	0.6	0.7	0.6	0.2	0.7
日照時間 (平年比)	4月	時間	-57.4	-37.0	-27.2	-17.9	-42.8	-51.8	-47.8	-33.4	-9.8	-26.2	-32.8
	5月	時間	38.1	-57.3	-66.6	-44.2	-58.1	-31.6	-48.8	-42.4	-59.7	-35.0	-42.7
	6月	時間	-36.9	-21.3	-30.7	-40.6	-3.5	7.5	18.3	2.7	-0.5	-42.0	-17.2
降雨量 (平年差)	4月	mm	34.1	-22.1	-32.8	-7.3	-38.8	21.9	114.5	34.7	74.3	124.3	9.2
	5月	mm	-10.1	-5.9	-31.6	-29.0	49.3	6.4	176.7	32.1	44.6	99.7	6.8
	6月	mm	25.6	16.6	18.4	-26.4	19.5	-31.5	36.9	47.0	47.9	121.9	-5.4



(出所) 図1、2 : 経済産業省「商業販売額統計」により作成。

表3 : 気象庁HPにより作成。ただし、全国の値については、各都市の値をブロック別の代表値とみなし、大型小売店販売額のシェアをウェイトとして加重平均したもの。

図4 : ・上記商業販売統計及び気象庁HPにより作成。

・2系列いずれも3か月移動平均を施した値をプロットしている。